



小児リハビリについて

小児リハビリでは、現在スタッフ4名で約60名の子どもたちを対象にリハビリを行っています。「身体の使い方が不器用」や「手先が上手く使えない」、「言葉が上手くでない」、「食べたい」等、お子さんの困りごとに対して“もっとしてみたい! ”、“できた!”の笑顔や、“すごいでしょ♪”を引き出せるよう、お手伝いさせていただ

いています。子どもたちの笑顔で私たちスタッフも大きなパワーをもらっています。

また、現在リハビリに通っている子どもたちの作品を、小児部屋とリハ室に飾っています。作品についての感想を募集していますので、この機会に是非記入をお願い致します。

小児リハビリ 川内 麻由佳



歌いたいの実現!!

コロナウイルスの感染拡大も落ち着きを見せ、当院においても“以前のように”とはいきませんが、徐々に感染対策を講じつつ患者さん同士の関わりを持つことが可能となってきました。そんな中、患者さんのかねてからの希望であるカラオケを、職種間の垣根を越えた多くのスタッフより実施することができました。患者さんの希望を実現するためには、多職種間の連携が不可欠です。

患者さんの「またしたい!!」や「あれがしたい!!」を実現し、入院生活に彩を添えるような関わりを今後も心がけていきたいと思っています。



リハビリテーション部 大月 悠

部長コラム

私は社会人になって今まで色々な車、バイクを乗り継いで来ました。車高を落としたら下がりがすぎ、コンビニにも行けなくなった車、燃費激悪のデカイアメ車、軽自動車よりも狭いくせに3ナンバーのミニ、爆音をまき散らし迷惑極まりないハーレー等等。それぞれの車、バイクにお金をかけ好き勝手に遊んできましたが、トラックに突っ込まれたり、不具合で泣く泣く手放したりで、結局手元には思い出しか残っていません。思い返すとかなりの散財です。歳を重ね、「もったいないことをしてきたな」としみじみと感じます。最近、家のN-BOXに乗りますが、よく走ります。車内も広いです。燃費も良いです。高速も割安です。結局、普通が一番だと感じる今日この頃です。



リハビリテーション部 矢頭 真

Column



「外来通院や入院中の患者さんご家族の支えになれるように」

よしみず病院が令和3年12月に開院してから、約1年半となりました。

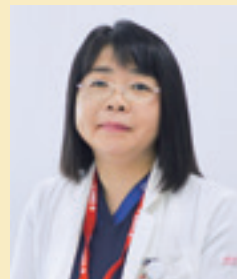
脳梗塞やてんかん、またパーキンソン病などの神経難病、物忘れ、自己免疫性疾患など様々な疾患の患者さんを担当させていただいています。

治療だけでなく、リハビリテーション部では理学療法、作業療法、言語嚥下と大きく3つの専門分野から、患者さんの状態に対応したリハビリを行っています。看護部では献身的な介護を、薬剤部での的確な服薬指導、また医療ソーシャルワーカーを中心に地域サービスやケアマネジャーとの綿密な調整を行い、患者さんご家族が安心して過ごせるように、病院全体で丸となって、日々取り組んでいます。

病棟や外来で患者さんご家族が元気になる姿は、私たちにとってもとても励みになります。神経難病の患者さんご家族が、心身ともに大切な時間を過ごせるように、これからも各部門の皆さんと力を合わせて頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経内科 高橋 志織



事務局長就任のご挨拶

令和5年3月より事務局長に就任いたしました石川和彦と申します。

唐突ですが、侍ジャパンが優勝を果たした先日のWBCは普段野球に興味がない人でも何かしら見聞きした話題ではないでしょうか。およそ三年にわたる新型コロナウイルス感染症による様々な不安や脅威を人々に与え続けたマインドを一気に吹き飛ばすようなトピックでした。

その大会中、大谷翔平選手が試合前陣で発した言葉、今日だけは目の前の有名なメジャーリーガーへの憧れを捨て、優勝という唯一無二の目標に向かって臨もうという言葉が多くの人に感銘をもたらしました。実は、この試合前陣での声掛けは毎試合行われており、準決勝の試合前にはダルビッシュ有選手が宮崎キャンプからの約一ヶ月を振り返り、ファンや監督・コーチ・選手への感謝の気持ちを述べていました。そして控えめに言って、我々はチームワークも実力も今大会ナンバーワンだと。そして決勝で強敵アメリカに勝利し、共通目標である優勝を成し遂げたのです。

医療や福祉の場においても、スタッフ一人一人が与えられた役割を果たし、お互いが助け合い、個性や多様性を尊重し、同じ目標を共有し達成することがやり甲斐や質の向上へ繋がるのではないのでしょうか。

そして、それらを行うにあたり重要なことは、一人一人が心身ともに健康であることだと思います。規則正しく(七時間以上の睡眠とバランスの取れた食事)、ストレスを発散(趣味や休息)し、持病がある人はしっかりと管理(受診や治療、服薬)し、節酒・禁煙に取り組み、感染症の対策を適切に行うことで健やかな日常を過ごすことができるでしょう。

私たちは「身体が資本」です。以上のようなことを参考にさせていただき、今年度も共に歩んでいきましょう。

事務局長 石川 和彦



Access



〒751-0826 山口県下関市後田町1丁目1番1号
TEL: 083-231-3888 FAX: 083-231-7957
E-mail: hosp@akn-yoshimizu.com

電車・バスをご利用の場合

- JR下関駅からサンデン交通バス ③・④(トンネル経由除く) 番乗り場より乗車 「山の口」バス停下車 徒歩5分
- JR幡生駅からサンデン交通バス ③番乗り場より乗車 「山の口」バス停下車 徒歩5分

車をご利用の場合

- JR下関駅から約10分
- 下関ICから約10分

よしみず病院 ☎ 083-231-3888

平日 午前9:00 ~ 午後5:00 土曜日 午前9:00 ~ 午後0:00

よしみず病院

<http://www.akn-yoshimizu.com/>



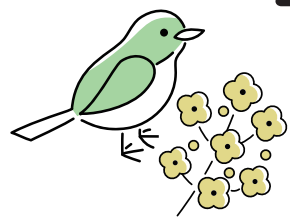
門司病院

<http://www.akanekai-moji.com>



よしみず病院附属看護学院

<https://yoshimizu-kango.com>



Tokiyō

時世 [ときよ]

VOL. 31
2023.MAY

時世
「世」という文字は「世」とも書き、「十」を3つ重ねた文字であり、30を表し30年間を意味します。茜会創立30周年にちなみ、「時世」と改称しました。

茜会理念 医療法人茜会は、外来・入院・在宅の三位一体の総合医療を目指し、地域医療に貢献します。



よしみず病院理念
病めるひとのために、より良い医療を追求します。

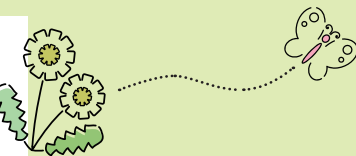
基本方針

- 在宅療養後方支援病院として、地域に根ざした医療を提供します。
- 難病や障害を持った患者さんに、適切な医療・リハビリテーションを行います。

- 先進的な医療・介護に取り組みます。
- 思いやりや、優しさを持って患者さんに接します。
- 職員は健全な経営を行うため努力し、働きやすい病院を目指します。

脳神経筋センターよしみず病院 院長あいさつ

院長 神田 隆



4月1日から脳神経筋センターよしみず病院院長を拝命しました神田隆と申します。私は大阪市の出身で、1981年に東京医科歯科大学(来年から東京科学大学という名称になります)医学部医学科を卒業、神経内科の臨床講座として日本で初めて設立された同大学の神経内科に入局しました。2004年に山口大学医学部神経内科の教授に就任し、以降18年にわたって県内の脳神経内科医療の向上に取り組んできました。旧昭和病院にも月2回程度の頻度でパート診療に携わらせていただいておりますが、このたび、教授職を辞して新しく生まれ変わった脳神経筋センターよしみず病院院長として赴任するにあたり、皆様にご挨拶を申し上げます。

脳神経内科は、脳血管障害、てんかん、頭痛、認知症などのcommon diseaseから神経変性疾患、脊髄・脊髄疾患、神経感染症、末梢神経疾患、筋疾患などを診療する非常に守備範囲の広い診療科であるとともに、338指定難病の25%を受け持つ、難病に特化した科でもあります。従来、脳神経内科が担当する疾患のほとんどには有効な治療手段がなく、脳神経内科医は“治らない病気をいじくりまわしている変わり者の集団”と揶揄される状況が続いていました。しかし、時代は変わりました。



世界中のメガファーマ、ベンチャー企業が、希少神経疾患を重点分野として新薬開発に“真面目に”乗り出しており、神経難病を治療することのできる薬が次々と上市されています。“治る”時代になれば、私たち脳神経内科医の責務はますます重要なものになってきます。関門地区には脳神経内科医が少なく、多くの神経難病の患者さんが適切な診療を受けられない状態が続いています。また、治ると言っても脳は脳、肝臓や胃腸と違って一旦障害を受けたことで一生障害をひきずる患者さんも少なくありません。したがって、急性期病院だけでは脳神経内科の医療は完結しません。脳神経筋センターよしみず病院は、神経・筋疾患の正確な診断から初期治療、リハビリから介護・看取りまでを一貫して行い、良質な脳神経内科医療を提供する病院として、全国に類を見ない存在になる可能性を秘めています。まずは神経・筋疾患の西日本の拠点を目指して、一丸となって前進していきたいと考えています。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

VOL.31
2023.MAY
Contents

院長あいさつ01
第21回TQM発表大会を開催しました／米国在住の日本人の帰国定住プロジェクトに協力／認知症キッズサポーター養成講座を実施02
令和5年度特定医療法人茜会入社式／新任医師のご紹介03

よしみずワイド in YouTube04
小児リハビリについて／歌いたいの実現!!／部長コラム05
脳神経内科／事務局長就任のご挨拶06

第21回TQM発表大会を開催しました

令和5年2月18日によしみず病院ばるてにて、第21回TQM (Total Quality Management) 発表大会を開催しました。大会会長はよしみず病院小西事務長が、実行委員長はよしみず病院の李事務次長が、審査員長は特別養護老人ホームフェニックスの小川事務長が務めました。発表は医療法人茜会、社会福祉法人晩会、有限会社ナックからなり、その内11題の発表がありました。それぞれが抱えている課題や目標、事業内容の成果、患者さんのQOL向上に向けた取り組み、ICT (Information and Communication Technology) の導入による効果の検証など、様々な活動発表がありました。

最優秀賞は、児童発達支援事業所つくべた門司による「あつまれ！つくべた門司」が受賞しました。内容は、児童発達支援所つくべた門司の立ち上げから経営が軌道に乗るまでの成果でした。目標設定と、目標達成への具体的なアプローチがあり、結果として目標を達成し、法人に大きく貢献しました。

また、特別講演では、元駐米大使、日米協会会長、中曽根平和研究所理事長藤崎一郎先生をお招きし、「国際情勢の見方」をテーマにご講演いただきました。昨今の国際情勢の见解や、諸外国の行動・発言の解釈など、大変興味深いお話を伺うことができました。



米国在住の日本人の帰国定住プロジェクトに協力

令和5年2月15日、日本に帰国移住を検討している二組のご夫婦がよしみず病院を訪問されました。これは「グローバル人材活用型下関地域創生推進協議会」が主催するプロジェクトであり、日本に帰国移住を希望している日系米国人の方々に下関市の魅力を紹介するツアーです。米国在住の日本人から帰国移住先として下関市が選ばれる理由としては、瀬戸内の温暖な気候、程良い田舎の地方都市であること、福岡や広島の国際都市にも近いこと、医療や介護施設が整っていることなどが挙げられていますが、その医療・介護施設として医療法人茜会、社会福祉法人晩会が市を代表する施設として紹介された形となります。当日は病院の紹介、見学、レストランでの食事会までのプログラムでとても充実したツアーになりました。ツアーの主催側も参加者の皆様もとても満足して、お帰りになりました。今後このような機会が増え、更によしみず病院のPRができること、下関市への移住者が増えることを期待しています。

令和5年度特定医療法人茜会入社式

令和5年4月3日に入社式を脳神経筋センターよしみず病院、北九州門司病院にて行いました。法人全体では、57名の方が入職し、医師4名、看護師22名、准看護師4名、ケアキャスト1名、理学療法士13名、作業療法士6名、言語聴覚士3名、社会福祉士1名、保育士1名、リハビリ助手1名、事務1名となっています。

入社式では、辞令交付を吉水理事長より行っていたき、茜会職員として、法人及び病院と一緒に成長してほしい、そして人生の宝である友人を作ってほしいとお話がありまし



新任医師のご紹介

よしみず病院

脳神経内科 **加藤 幹元**

本年4月から勤務することになりました。以前は下関医療センターで地域の皆様にお世話になっていました。よしみず病院は昨年脳神経筋センターを立ち上げ、神経難病診療の中核を担うことを目指しています。微力ながらその一翼を担っていきたいと思っています。脳神経内科領域の疾患の患者様、職員の皆様に信頼され、先生方から安心してご紹介していただけるように、頑張らせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

内科 **河端 俊英**

令和5年4月1日よりよしみず病院で勤務させていただくことになりました河端俊英と申します。出身は山口県山口市小郡です。平成31年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学で卒後臨床研修の後、福岡大学呼吸器内科に入局しました。昨年は佐賀県の病院で勤務しておりました。今回は地元である山口県で働けることを非常に嬉しく思っております。よしみず病院では呼吸器疾患の患者様のみならず、幅広い内科疾患の患者様を中心に診療させていただきたいと思っております。半年間と短い期間ではございますが、宜しくお願い致します。

た。その後のオリエンテーションでは、各講師からの講義を行っていただく中、令和5年度より院長となられた神田先生の講義もあり、脳神経筋センターよしみず病院は将来的には西日本を代表する脳神経筋センターとなるよう努めていきたいとお話もありました。

初めは緊張がみられていた新入職員の方たちでしたが、休憩や講義の中でのコミュニケーションを経て、2日目には和やかな雰囲気に参加されており、良いスタートを無事に皆さん切ることができました。

よしみずワイド in YouTube

梅光学院大学との連携授業から生まれた企画としてYouTubeで「よしみずワイド」を配信しました。これは令和2年度から開始した梅光学院大学とのPBL (Project Based Learning) の成果です。よしみず病院から大学側にお願いした課題は、「地域に愛される病院」になるためにこういった取り組みをすればよいかというものでした。連携授業を始めてからこの間、新病院への移転、コロナパンデミックと様々な出来事があり、思うように授業を進められないこともあったのですが、ようやく企画を実施できました。

「よしみずワイド」は、学生が企画したよしみず病院の紹介動画です。学生自らがキャスターとなり、よしみず病院の魅力を伝えたり、360度カメラで院内を撮影した映像を紹介したりしました。動画はYouTubeで生配信をし、その後アップロードされてから徐々に再生数を伸ばしています。学生のメンバーが色々とアイディアを出しあって準備を進めてくれたおかげで、親しみやすい雰囲気の動画になりました。地域の皆様がよしみず病院に関心をもってもらうきっかけになればと思います。

まだご覧になっていない方は、ぜひご視聴をよろしくお願いいたします。



脳神経内科 **中島 夏希**

今年度お世話になります、中島夏希と申します。出身大学は福岡大学です。大学卒業後は浜の町病院、九州大学病院で研修し、令和4年度福岡大学病院脳神経内科に入局しました。

父の影響で大学進学前より脳神経内科に自然と興味を持っており、学生・初期研修医時代に神経内科の奥深さ・面白さを感じ、脳神経内科へ進むことにしました。よしみず病院では末梢神経障害をはじめとする多くの疾患を深く学びたいと思っております。ご迷惑をお掛けすることも多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

門司病院

呼吸器科 **高木 陽一**

4月1日より北九州市立門司病院に入職致しました、呼吸器科の高木陽一と申します。生まれは久留米で、田園の中で蛙の鳴き声を聞きながら育ちました。昭和63年に大学を卒業し、最初の10年は主に筑豊地区の病院と離島の診療所、次の10年は結核病床を持つ呼吸器科の病院、最後の10年程は福岡市の急性期病院で働いておりました。診療所、中小の病院、大病院と同じ医療機関ですが、提供するサービスは全く違います。また、同じ規模の医療機関であっても、時代や立地している周辺的环境によって、必要とされるサービスは変わってくるようです。今回、満開の桜ごしに関門海峡が見渡せ、汽笛も聞こえる門司病院で、働かせていただくこととなりました。早くこの地に慣れ、時代にあった医療を提供できるよう、精進したいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

